

令和6年度 AI オンデマンド交通 実証実験の結果について

実証実験の概要

運行概要

1 運行期間

2024年10月 1 日～12月31日(92日間、運休日なし)

2 運行時間

9:00～12:30／16:00～19:30

※ 金、土曜日・休前日とコンベンション運行日は21:30まで延長

3 運行車両

サンレー交通、名鉄知多タクシーのジャンボタクシー各 1 台

※ 道路運送法第21条による乗合許可

4 運賃

【1 回】

おとな…500円／こども…200円

【回数券】

6 回券…2,500円(1 回あたり417円)

10回券…4,000円(1 回あたり400円)

【乗り放題券】

1 日…1,200円 観光利用を想定。3 回利用で元がとれるため、訪問地点の増への寄与を期待

10日…2,000円 乗り放題のお試し利用を想定。週 2 回のお出かけ + 1 回で元がとれるため、お出かけ意欲向上への寄与を期待

30日…5,000円 定期的な利用を想定。自宅～駅間の通勤・通学や送迎の利用の取り込みを期待

※ 乗り放題券のうち10日・30日は、+1,000円で同居家族 1 人を追加可能



実証実験の概要

運行の特徴

1 市街地運行

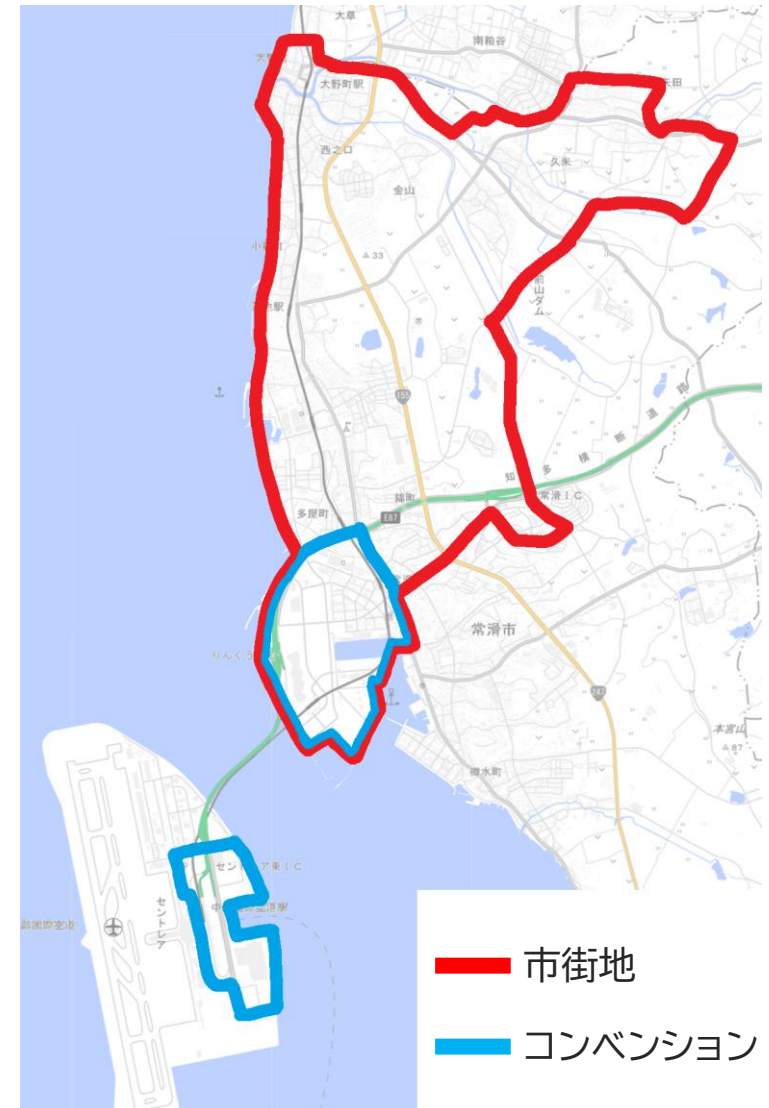
- 2023年度は青海・鬼崎地区を2エリアに分けて運行したが、「車両が1台ずつしか配置されず、利用者が少なくても予約できないケースがあった」、「市北部から中央部には乗継が必要で、利便性が十分でなかった」などの理由から、今年度は1エリアに統合し2台を配置した
- 他地区に比べてコミュニティバス グルーンの利用者が少ない大野町駅～矢田・久米・前山間の地域の移動ニーズへの効果を検証するため、乗降場所に新たに市役所、市民病院を追加
- 新たな活用法(地元での会食のお出かけ)の検証として、金・土曜日などの夜の運行時間を延長

2 コンベンション運行

- 2023年度は特定のイベント(2日間)に、市街地運行を休止して実施
- 今年度は期間(3か月間)を通して、イベント開催日を中心に市街地運行と並行稼働した

3 コールセンターの地元運営

- 利用者がスムーズに配車できるよう、土地勘がある地元交通事業者(知多乗合)にコールセンターを委託



実証実験の概要

PR・住民説明会

1 PR

- ・ 運行エリアの住民が多く訪れる場所で、ポケットティッシュを配布してPRを実施
- ・ 愛知県国際展示場で開催されたイベントの出展者に対し、チラシを配布

9月27日(金)	大野町駅（朝・夕の通勤・通学時間帯）
9月28日(土)	カインズモール
11月15日(金)、16日(土)	愛知県国際展示場イベント(フィールドスタイル)

2 住民説明会

- ・ 運行エリアの区長・副区長、民生・児童委員、高齢者サポーターを対象とした説明会を実施
- ・ 運行エリア各地区で開催される高齢者サロンなどを訪問して説明会を実施

9月27日(金)	区長・副区長、民生・児童委員、高齢者サポーター	とこなめ市民交流センター
10月2日(水)	民生・児童委員連絡協議会(鬼崎地区)	とこなめ市民交流センター
10月4日(金)	民生・児童委員連絡協議会(青海地区)	とこなめ市民交流センター
10月10日(木)	青海地区	青海公民館
10月11日(金)	多屋団地	多屋団地集会所
10月16日(水)	蒲池地区	とこなめ市民交流センター
10月22日(火)	大野町地区	大野南集会所
10月23日(水)	榎戸地区	とこなめ市民交流センター
10月29日(火)	前山地区	前山会館
11月7日(木)	西之口地区	西之口公民館

実証実験の結果

利用状況①

1 利用件数・利用人数

- 3 か月間の利用人数は**930人(10.1人／日)**
- 今年度は有償での利用を測るため、広報とこなめでの**お試し券配布を実施しなかった**
- 2023年度はお試し券の終了後の1月に、利用者が大きく減少したが、今年度は12月に利用者が増加しており、毎日運行を続けたことで**認知の向上や利用機会の増加**につながったと考えられる

2 配車方法

- 電話による配車は**25%**(178件／718件)
- 2023年度は33%(コンベンション運行を除く)だったことから、**アプリで配車する人の割合が向上**
- ただし、電話配車を煩雑に感じて離れた可能性も否定できないため、電話配車からアプリ配車に転換したとは断定できない

2024年度	電話						アプリ						合計						電話率
	件数	人数					件数	人数					件数	人数					
		合計	大人	小児	幼児	乗り放題		合計	大人	小児	幼児	乗り放題		合計	大人	小児	幼児	乗り放題	
10月	50	65	65	0	0	0	188	248	171	5	11	61	238	313	236	5	11	61	21%
11月	53	69	69	0	0	0	145	186	123	21	3	39	198	255	192	21	3	32	27%
12月	75	91	91	0	0	0	207	271	185	10	14	62	282	362	276	10	14	69	27%
合計	178	226	226	0	0	0	540	705	479	36	28	162	718	930	704	36	28	162	25%

2023年度	電話						アプリ						合計						電話率
	件数	人数					件数	人数					件数	人数					
		合計	大人	小児	幼児	乗り放題		合計	大人	小児	幼児	乗り放題		合計	大人	小児	幼児	乗り放題	
12月	105	162	158	4	-	-	197	245	240	5	-	-	302	407	398	9	-	-	35%
1月	33	39	39	0	-	-	79	101	98	3	-	-	112	140	137	3	-	-	29%
コンベンション	0	0	0	0	-	-	28	65	65	0	-	-	28	65	65	0	-	-	0%
合計	138	201	197	4	-	-	304	411	403	8	-	-	442	612	600	12	-	-	31%

※ 北部・中部エリア合計。内訳不明分は大人に計上

実証実験の結果

利用状況②

3 売上状況

- 3ヶ月間の事業収入は、法人会員や企業広告の収入を含めて**375,000円**
 - 乗り放題や回数券の利用も一定数見られ、日常生活に取り入れている利用者もいた
 - 今年度は、住民に馴染みのある**紙回数券**を用意したところ**163件**の利用があった
- ※ 説明会参加者にお試し用として配布した分を含む
- 2023年度に比べて、収入は約5倍になったが**事業費をまかなうまではほど遠い**

区分		10月	11月	12月	合計
1回利用	現金	47,300	54,500	47,300	149,100
	クレジット	25,400	16,200	30,700	72,300
回数券	6回券	15,000	12,500	0	27,500
	10回券	12,000	4,000	4,000	20,000
乗り放題	1日	0	1,200	1,200	2,400
	10日	0	0	2,000	2,000
	30日	20,000	20,000	30,000	70,000
法人会員・企業広告		2,200	0	30,000	32,200
合計		121,900	108,400	145,200	375,500

※ 金額の単位は円

※ 回数券は購入された月で計上

4 コンベンション運行・イベント連携の状況

- コンベンション運行では空港島と常滑駅周辺の乗降場所を追加
- 全体で31件の利用があったが、システムの都合上、空港島・常滑駅周辺⇄その他のエリアで利用できたため、観光客よりも住民が利用していたと思われる
- 観光客にmobiの**情報を届けるための接点**をつくるのが難しく、利用が広まらなかった
- 一方でセラモールのイベントとの連携では**2日間で33名**が利用しており、広く呼び掛けるよりも、**主催者などと連携した情報発信が有効**と思われる

		降車			
		空港島	常滑駅周辺	その他	合計
乗車	空港島	0	0	3	3
	常滑駅周辺	1	2	6	9
	その他	9	10		19
	合計	10	12	9	31

実証実験の結果

利用状況③

5 乗降場所ごとの利用状況

- 乗車、降車とも大野町駅の利用が多い
- 他の上位の乗降場所と比べ、沢山の人が訪れる施設がないため、鉄道と乗継ぐ利用が多かったと推測される
- イオンモール、カインズモール、常滑市民病院の利用も多く、買い物や通院などの日常利用が多い
- 一部の住宅地で利用が多い乗降場所があることから、特定の利用者が定期的に利用していたと考えられる
- 北汐見坂1丁目バス停は降車が乗車の3倍あることから、他の移動手段と組み合わせて利用していたと考えられる

	乗車場所	回数
1	大野町駅	67
2	イオンモール常滑(タクシーのりば)	61
3	カインズモール(宝くじ売り場)	44
4	常滑市民病院(飛香台)	40
5	港町1丁目(ビレッジハウス榎戸)	39
6	常滑駅 東口	30
7	農協北部センター	28
8	介護老人福祉施設しろやま	23
9	宮山公会堂	21
10	北汐見坂1丁目バス停	19
	ショッピングマルス常滑駅前店	19
12	港町4丁目(イエス)	18
13	ローソン常滑錦町店	17
14	セラモール 北のりば	16
	多屋字茨廻間(多屋団地) 北のりば	10
15	榎戸駅	10
	常滑市役所(飛香台)	10

	降車場所	回数
1	北汐見坂1丁目バス停	57
	常滑駅 東口	57
3	大野町駅	53
4	カインズモール(宝くじ売り場)	48
5	イオンモール常滑(タクシーのりば)	28
6	常滑市民病院(飛香台)	26
7	港町1丁目(ビレッジハウス榎戸)	25
8	常滑市役所(飛香台)	19
9	港町4丁目(イエス)	18
10	前山消防団車庫バス停	17
11	宮山公会堂	16
12	セラモール 北のりば	16
13	ショッピングマルス常滑駅前店	12
14	市民交流センター	11
15	農協北部センター	10
	久米字西郷(盛泉寺)	10

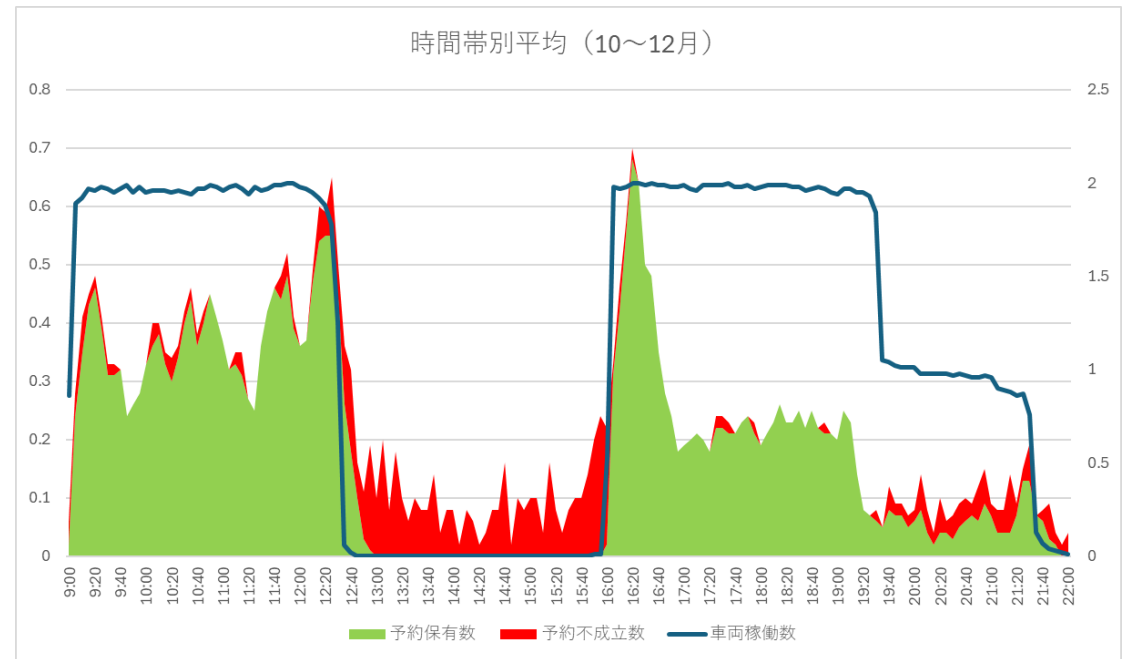
実証実験の結果

利用状況④

6 時間帯別の利用状況

- 今年度は運転手のシフトや利用者数を考慮し、**昼休み(運休時間)**を設定
- 午後の運行が始まる16時に配車の申込が集中したことや、昼休みの時間帯に不成立があったことから、一定の需要はある模様
- 複数台で運行する場合は、**各車両の運休時間をずらす**など、運休時間を設けないことも必要

時間帯	日	月	火	水	木	金	土	合計
9	9	15	17	8	15	14	13	91
10	15	15	18	18	20	19	18	123
11	10	18	17	12	18	22	14	111
12	13	14	4	11	12	21	11	86
13								
14								
15								
16	10	16	10	18	11	15	18	98
17	10	11	5	11	8	8	8	61
18	9	6	13	15	10	11	10	74
19	4	5	1	1	4	6	14	35
20	2			1	1	9	7	20
21	1		1		2	10	5	19
合計	83	100	86	95	101	135	118	718



実証実験の結果

アンケート結果

1 アンケート方法

- アンケートは、
 - ① 利用者にアンケートフォームのQR付カードを配布(n=11)
 - ② 利用者にビンゴカード形式のカードを配布(n=129)
 - ③ アプリ会員の利用者向けアンケート(n=37)
 - ④ 実証終期にイオンモール常滑で認知度などのアンケート(n=122)の4つを実施
- ①利用者アンケートの回答率が芳しくなく、補完する目的で②を実施
- 乗車中に回答できる程度に質問をしぼったこと、カードに穴をあける方式にしたことから一定数のサンプルを集めることができた

2 主な結果

- 今後もこのエリアの交通手段としてmobiが必要だと感じますか(アンケート③)
→殆どの利用者が**今後地域に必要と認識**
- 運賃について(アンケート③)
→運行エリアの拡大で利便性が向上したこともあり、**ちょうど良いが約8割**
- お出かけの目的について(アンケート②)
→外食・レジャーなど行政が主体となる公共交通ではカバーされにくい用途での利用が多い

n=37		
はい	どちらともいえない	いいえ
97.3%	2.7%	0.0%

n=37			
高い	少し高い	ちょうど良い	安い
0.0%	13.5%	78.4%	8.1%

n=146				
1位	2位	3位	4位	5位
外食・ レジャー	買い物	その他	通院	通勤・通学
49	40	22	16	10

実証実験の結果

アンケート結果

2 主な結果(続き)

- もしmobiがなかったとしたら、今回のお出かけをしていましたか(アンケート②)
→約3分の1がお出かけ自体をしていなかったと回答。お出かけ促進効果が期待できる
- もしmobiがなかったとしたら、今回のお出かけにはどんな移動手段を使っていましたか(アンケート②)
- mobiを利用した区間について、普段はどのような交通手段を利用していますか(アンケート③)
→タクシーが最多で、影響について精査が必要
→一方で、自家用車や家族友人の送迎からの転換も多く、新たな公共交通利用者が期待できる

n=129

していた	していない
64%	36%

n=171

1位	2位	3位	4位	5位
タクシー	バス	自家用車	鉄道	家族友人の送迎
41件	38件	31件	29件	24件

n=37

1位	2位	3位	4位	5位
自家用車	タクシー	家族友人の送迎	バス	徒歩
23件	11件	9件	7件	6件

実証実験の総括

今後の事業の方向性について

委託事業者と取りまとめた今後の事業の方向性は次のとおり

- 実証後半にかけて利用者が増加していたことから、認知度向上や利用機会の確保のため、今後の実証または実装にあたっては半年以上の期間を設定するのが望ましい
- 終盤にイオンモールで実施したアンケートの結果から、認知度はまだまだ低いので、さらに長期間で実証することで、人づてで利用方法やユースケースが広まっていくことが期待される
- 利用者アンケートでは、普段は自家用車や家族・友人の送迎に頼っていた人も多く、コミュニティバス グルーンではカバーできない交通空白地対策としての効果が期待される
- 一方、タクシーを利用していた方や、利用動機で「費用が抑えられる」といった方も見受けられるため、実装を目指していく場合は、タクシー事業への影響も含めて、地域でしっかり合意をすることが必要
- コンベンション運行については、相乗りによって事業性を向上させることを期待したが、全国から訪れる人への周知は難しく、連絡橋の通行料金も必要になるため、現時点で事業性を高める効果はあまり見られない。
2025年4月から空港島・市街地間シャトルバスが運行されることから、実装については市街地側のみで検討するほうが良い
- イベント(セラモールの急須の郷めぐり)との連携は、确实にお出かけ(移動)する層にPRできることから効果的。
今後も、運行エリア内にある各施設との連携が重要